

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1471903136	事業の開始年月日	平成18年3月18日
		指定年月日	平成18年3月18日
法人名	有限会社ライム倶楽部山下		
事業所名	グループホーム来夢の家		
所在地	(〒238 -0046) 神奈川県横須賀市西逸見町1-38		
サービス種別 定員等	認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	令和 1年9月30日	評価結果 市町村受理日	令和2年1月6日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・地元の町内会との交流を季節の行事に合わせ参加し、季節感を感じて頂く。 ・施設内の掲示物や飾りつけに、]季節感を感じる工夫をしている。 ・面会時間は自由にしており、来訪しやすい環境を作る。 ・近隣の保育園や市民グループとの交流会には、積極的に参加している。 ・夏の当施設の花火大会には、近隣の方々と共に楽しんでいる。
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	令和1年11月20日	評価機関 評価決定日	令和1年12月25日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>【事業所の優れている点】</p> <p>◇地域との連携による交流活動の強化 花火大会など事業所の行事には、地域にチラシを配布して知らせ、利用者は、参加した住民と一緒に楽しみ、また、季節ごとの保育園児の訪問を楽しみにしている。一方、盆踊りなどの地域行事や町内会の懇親会には、利用者が招待されている。</p> <p>◇看護師による充実した利用者の健康管理他 看護師が週3回来訪し、協力医と連携して利用者の健康管理に当たっている。また、看護師は「サービス担当者会議」や「身体拘束禁止等適正化委員会」に出席するほか、「看取り研修の講師」を務めことで、看護師の専門性を職員の能力アップにも活用している。</p> <p>【事業所が工夫している点】</p> <p>◇年間計画を立て、2か月毎に「身体拘束禁止」「虐待防止」「看取り」などの職員研修を実施している。</p> <p>◇隣接するマンションの1室を、職員の休憩室や備蓄品の保管場所としても活用し、更に、看取りの際の家族の休憩室としても利用している。</p> <p>◇合唱が得意な職員は、利用者に馴染みの童謡と一緒に歌い、映画鑑賞を趣味とする職員が、DVD鑑賞会で古い映画の俳優当てゲームを行うなど、職員がそれぞれの得意を活かして、レクリエーションを企画し支援している。</p>
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム来夢の家
ユニット名	壺番館

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「来夢の家」の理念を開設当初より作成し、各ユニットに掲示し、スタッフは共有し、日々の介護実践に反映している。管理者は、定期的なミーティングの際に、常に確認している。	「慈愛・尊敬・受容の心を大切にす る」の理念を、各ユニットの事務室 に掲示している。 ・管理者は、ミーティングなどで理 念に則り、敬意を持って利用者本位 の実践状況を確認し、職員間でも確 認し合っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に積極的に参加させて頂くと共に、ホーム主催の花火大会は近隣の方々にも参加を呼びかけ、お子様を含めた交流を深めている。	・利用者は、盆踊りなど地域行事に参加し、花火大会など事業所行事には、近隣住民が参加がある。 ・町内会の敬老会や懇親会に招かれ参加する利用者もいる。 ・季節ごとに、近隣保育所の園児が訪れて、交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者、ユニットリーダーが中心となり、隔月のミーティングや勉強会等を開催し、その中でグループホームの役割りについて話し合うようにしている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月に運営推進会議を開催し、近隣の代表者及び見識者と共に事業所の様子を報告する。今年、排泄処理に使う古新聞が不足したので、地域の皆様に回収を依頼したところ、快く応じてくださりとてもありがたことであった。	・利用者と家族、町内会役員、市職員等が参加して、2か月毎に開催し、利用者状況や事業所の活動内容を説明し意見交換している。 ・事業所で使用する排泄処理用古新聞の不足対策を議題に挙げ、地域住民からの提供が定着した。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村との連携は、制度の改定等での指導や説明を通して、ホームの現状を伝えている。特に、横須賀市が独自で行っている、オムツの支給サービスに協力し、オムツの種類やタイプ等の連携を行う。	・市のグループホーム協議会による会議や研修会で、高齢福祉課職員と協力関係を築いている。 ・運営推進会議録を毎回高齢福祉課に送付し、また毎年、市が実地する指導でも、事業所の実情や取組みを伝えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	老番館では、身体拘束を行わない理念の基に常に援助を心がけている。幸い、現在は対象のご利用者様がいないこともあり、実践はできているが今後必要になる日がくることに備える。	・「身体拘束等適正化の指針」を基に定期的に研修を行っている。 ・3か月毎に、看護師や家族代表が参加する適正化委員会を開き、全職員に議事録を回覧している。 ・安全上玄関は施錠し、外出希望者には都度職員が対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加し、その内容を職員全員に周知するように機会を設け、日々のケアにも潜んでいる虐待につながる言動をスタッフ同士で互いに注意しあう関係を作っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間を通して、施設内で行う「内部研修」にて、スタッフが共に学びあえる機会を作り、共に研鑽している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に、今年度の制度説明を含め十分な説明を行い、同意を得る努力をしている。日常の介護の面でも入居の際に、個別のケアについてスタッフのケアとご家族の係わりについても協力を説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム理余上の苦情を受け付ける窓口を明確にして、苦情に対する早期の対応及び解決を心がけている。また、管理者より職員への指導も徹底して行っている。	・重要事項説明書に、事業所内外の相談窓口を明記して意見を受け付け、運営推進会議参加の利用者や家族から、意見を聞いている。 ・職員は丁寧に会話し、利用者や家族が意見を出しやすい雰囲気にならめ、意見や要望は、リーダー会議で検討し運営に反映している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のリーダー会議にて、壱番館及び式番館のスタッフからの意見を代表者と管理者が話し合い、事業所の運営に活かしている。特に、地域との交流に関しては、近隣の住民の皆様達にご迷惑がかからぬよう、十分な配慮をしている。	・管理者は会議や日常の場でも出される職員の意見や提案を試してみている。 ・職員の意見から、2ユニットとも2か月に1回実施していたカンファレンスをユニットの現状に合わせてそれぞれの頻度で行うこととした。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、毎年職員の就業状況を判断して、給与の水準アップや公的な最低賃金等にも配慮して、適切な処遇を目指している。休憩場所の確保や環境にも配慮している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の教育は、個別の希望と事業所の要望を取り入れ、年間を通して計画し、資格の取得にも援助している。勉強会では、時期的に応じて企画を立てて、現在の業務に沿った勉強会としている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム協議会を活用し、他施設との交流介護体験に参加して、他施設の状況を実際の場面で確認することでスタッフの向上する機会ができる。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新たに入居される方々に対し、ホームを理解していただくような説明と理解を得る努力をします。始めて、ホームを利用される方に対し、受容を基本として、傾聴する姿勢で接します。安心が一番の接遇です。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	新たに入居された利用者のご家族には、生活日課や環境が不明なので積極的に状況をお知らせします。お手紙に写真を載せて、目で見えるようにし、行事には参加を促し、ご家族も楽しんでいただくようにする。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを開始する前に、事前に面背をさせていただき、利用者様とご家族様の両方にお話を聞きます。その上で、具体的なプランを作り、同意を得た後、入居いただき生活が始められるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護を受ける方の生活支援を介護する側の援助とはせず、利用者ファーストの意識で共に暮らす者として、関係を築きます。生活にはストレスもあり、ホームの中や外を活用して共に過ごす仲間のような関係作りをします。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との関係作りは、ご家族がホームの介護に口を出せない関係ではなく、自宅での介護状況や昔の出来事などを介護に活かしていけるように、ご本人の有意義な情報の提供と実践を行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様が入居前に大切にしていた家具や物、音楽、人等をご家族より聞いて、実生活に活かすように努力します。昔、ペットを飼っていた人は時々連れてきていただき、接する時間を作り、関係の維持に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の大半が、地元出身のため、商店街での買物や初詣、花見など要望に応じて、近隣の馴染みの場所に出かけている。 ・面会時には、コーヒー出して寛いで過ごせるよう配慮し、家族との外出時は、安心して過ごせるよう情報提供などで支援している。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の生活リズムの違いを把握し、一人になる時間やリズムを整える事で孤立を防ぐようにしている。昼間に居室で人になり過す時間を短くし、食事のテーブルでグループワーク等を行い、互いの協力を得るようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの終了後でも居宅介護支援事業所との引継ぎをしっかりと行くと共に、介護方法や必要な物品の調達等について助言できるようにしている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の言動や表情からご本人の意見を汲み取り、その人らしくホーム生活を送っていただけるよう心がける。	<ul style="list-style-type: none"> 言葉は分かり易くゆっくり会話し、意向の把握に努めている。 意向把握困難な場合は、表情や態度から思いを汲み取るとるほか、家族からの情報や意見をもとに利用者本位に検討している。把握した意向は職員間で共有している。 	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活や若い頃の様子等をご家族から聞き入れ、これまでの生活の様子を把握して、スタッフが共有できるよう努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全員が一人ひとりの全身状態を把握し、自力のできる事柄には積極的に参加していただけるよう努める。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	来夢の家で暮らす皆様方の生活援助に関する課題や目標を期間内に振り返る時間を設け、日々の暮らしの様子を検討していく。短期間に試行するような内容も個々別にあり、ご家族との意見も反映していく。	・介護計画は原則6か月ごとに見直し、モニタリングをし、看護師も参加してサービス担当者会議を行っている。 ・利用者の状況や家族、医療関係者の意見は記録し、サービス担当者会議の資料としている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録を日々、時間の経過と共に記載し、職員の申し送りの際には一人の情報として伝達していく。また、全職員が情報の共有をするために、申し送りの活用をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別の対応として、その時のニーズに応ずる体制作りは、その都度その場で検討して対応していく。急な病院受診のニーズもあれば外出もある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域密着がテーマの施設であることを心がけ、町内会・民生委員を始め多くの地域の皆様にご協力をいただき、季節の行事等に取り組んでいる。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の診療については、個別の体調や慢性病等の療養管理をご家族の意見を聞き入れ、定期的な診療を提供していく。専門的な治療については、その都度専門医の指示を受けて、各科の医師と協力していく。	・利用者の同意を得て、事業所の協力医をかかりつけ医とし、訪問診療や専門医の紹介を受けている。訪問診療前に利用者の現状を送信し、医師の指示は記録して、職員間で共有している。 ・専門医受診は、原則家族が同行し、事業所と情報共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週3回看護師が出勤する時に、必要な処置や専門的な助言、健康指導を行っている。健康チェックについては、急な変化に十分配慮して、病気の可能性を予知して考える。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の状況については、医療機関のスタッフに十分状況を聞き入れ、状況を把握する。その際に、直接面接して打合せを行う必要もある。早期の回復や退院に向けた手段を共に共有できる連絡を続けていく。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化が予想される入居者様や終末期にある入居者様について、高齢者施設ができることを説明し、医療に係わる希望も理解する。ホームでは、介護を中心に意見を出し、適切な環境作りができるよう働きかける。	<ul style="list-style-type: none"> ・見取介護が必要な際は、職員が協力医や家族と話し合い、方針を共有し、チームで対応している。 ・職員には、看護師や保健師を講師とした終末期研修を定期的実施している。 ・近くに寝泊まりして、職員と一緒に本人を看取る家族もいる。 	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員が救急対応の講習に参加し、AEDも備え実際に使えるように講習も参加しています。入居者様の急変については、個々の変化の可能性を理解し、優先順位を確認しておく。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	各ユニット毎に災害時の対応を定めて、生命が一番優先することを考え、防災や避難に取り組んでいる。災害時は、地域全体が被害を受けパニック化しているために、ホーム内で安全な場所の確保を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練は、年2回内1回は夜間を想定して行っている。夜間想定訓練では、夜勤勤務者一人で利用者を誘導している。 ・タオルや着替えなどを詰めた避難用バックを、利用者ごとに常備している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・備蓄品専用の管理台帳を常備して、備蓄品の入れ替えを適切に行うことが期待されます。 ・今後も、避難訓練への協力を地域に働きかけていくことに期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人権を尊重した言葉かけを重視している。ホームでは、毎日の生活を気持ちよく快適な暮らしをしていただくことを目標としています。個人情報の管理はもちろん、プライバシーの保護も怠らないようにしている。	・接遇マニュアルにて、職員研修を年1回行っている。職員は、利用者への言葉使いや態度に注意し、事業所内のことは口外しないよう心掛けている。 ・職員間の申し送りなど、利用者に関する話は、利用者には聞こえない場所で行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活を自己で判断できるような援助と、自己決定を重視する環境を作っている。ご本人様の意見を傾聴し、希望や要望を活かしていただけるような援助をしていく。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の目標はもちろんありますが、個々の要望によって過すことも大切なことなので、個々の生活スタイルに沿った暮らしづくりをしている。また、コンビニ等に買い物に行くこともある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ホーム内では、個室以外はパブリックスペースと考え、身だしなみには十分整えて生活していただくことにより、終日パジャマや寝巻きで過すことはせず、昼と夜の違いや1日の時間配分も理解していただくよう援助する。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	居室の掃除やモップがけ、その人ができる範囲で間接的に係わったいただき、食事を食べる時は必ずスタッフも一緒に食べることを習慣化している。	・利用者が苦手な食材は、魚を肉に変更するなど対応している。 ・おせちなどの行事食は利用者の好みを聞き手作りしたり、敬老の日には寿司を取るなどしている。 ・利用者は、もやしひげ取り、ゆで卵作り、食器拭きなどができる範囲で手伝っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量のチェックを行い、個別にまとめ1日の摂取量として一目でわかるようにしている。同時に排尿量の観察も行い、脱水予防に役立てている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず口腔ケアを行っている。自力で出来ない方は、一人ひとり洗面にて、入れ歯洗浄を同時に行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを確認しやすい表にして、形態別の表を作っている。これを個別のページとして、個別の援助に心がけている。	・夜間はオムツでも、昼間は布パンツやリハパンとパットにして、オムツの使用を減らしている。 ・リハビリパンツへの変更やパットの当て方は、1週間ほど試してみて、利用者に適した方法を見つけるよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個別の排泄パターンを把握し、排泄量と時間を確認する。生活サイクルの中で、水分摂取と適度な運動を心がけると共に看護師と共に相談しながら、内服薬の調整も行い、適切な排泄援助を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は、安全への配慮と衛生の保持を目的にゆったりと行っている。入浴日程の変更や調整は、職員の都合ではなく、個別の都合によって決めているので、生活目標に沿って援助できている。また、入浴は衛生面を考慮して一人ひとり新しい湯に入れ替えて入浴していただく。	・入浴は、週2回午後1時～3時までを原則としている。 ・利用者は職員と会話したり、一緒に歌を歌ったりして入浴を楽しんでいる。 ・入浴を嫌がる利用者には、声かけを工夫して誘っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個別の睡眠パターンを把握して、安心して眠っていたdふあくよう環境を整えている。夜間の排泄援助も汚れる時間を短くして衛生を保つ。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	最新の処方薬の種類や用法、副作用が記されているものを個別ファイルし、全職員が目を通すことができるようにしている。また、申し送りノートを活用し、職員に周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の得意、不得意を把握し、出来る限り得意なことを活かし他ホームの生活を送っていただくよう援助していく。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	全職員がお散歩や買い物に対応できるように努めている。ホームの近くのコンビニに買い物に行くことで馴染みの関係が築けるよう心がける。	・週1回は散歩するように支援している。事業所の車で花見、初詣、菖蒲やバラ園にも出かけている。 ・本人の希望で、軍艦を見に行ったり、コンビニや商店街に買物に出かけたりする利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームにて、ご家族より小遣い程度の現金をお預かりして、ご利用者様の要望によりコンビニ等に出掛けるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族と相談し、携帯電話を持っていただき、定期的にご家族向けに連絡を取れるような関係作りを構築できればよいと思っており、ご家族と話が出来る時間はとても良いと感じている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部のスペースは、全員の共用スペースとして季節を感じて頂くような演出をフロアの壁の部分に行っている。特に行事の際は、飾り物を共に作り、飾るようにして、楽しめるよう努力している。	<ul style="list-style-type: none"> ・室温は28度、湿度は50%を目安にしているが、利用者を確認しながら調整している。 ・端午の節句には武者飾り、七夕には笹飾りなどで季節が感じられるように演出している。 	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングスペースには、ソファが備えてあり、個別の居場所となっている。そこで、テレビを見たり、新聞を読んだりして自由に過している。また、ベランダに出て外気浴をしたり、季節を感じていただくようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、個別のプライバシーが保てる場所として確保している。ご入居者様が入居前にご使用の家具も持参していただき、生活の自由と安心を考えている。	<ul style="list-style-type: none"> ・造り付けのクローゼットや洗面台、およびベッド、エアコン、空気清浄機が備え付けられている。 ・利用者は、ダンスや家族の写真を持ち込んでいる。仏壇や位牌、賞状を置いている利用者もいる。 	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご入居者一人ひとりの認知度に合わせて生活状況を判断した上で、混乱を防ぎ安心を感じていただくよう努力する。その人らしい生活の実現に向けて支援していく。		

事業所名	グループホーム来夢の家
ユニット名	式番館

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「来夢の家」の理念を開設当初より作成し、各ユニットに掲示し、スタッフは共有し、日々の介護実践に反映している。管理者は、定期的なミーティングの際に、常に確認している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に積極的に参加させて頂くと共に、ホーム主催の花火大会には、近隣の方々にも参加を呼びかけ、お子様を含めた交流を深めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者、ユニットリーダーが中心となり、隔月のミーティングや勉強会等を開催し、その中でグループホームの役割りについて話し合うようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月に運営推進会議を開催し、近隣の代表者及び見識者と共に事業所の様子を報告する。今年、排泄処理に使う古新聞が不足したので、地域の皆様に回収を依頼したところ、快く応じてくださりとてもありがたことであった。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村との連携は、制度の改定等での指導や説明を通して、ホームの現状を伝えている。特に、横須賀市が独自で行っている、オムツの支給サービスに協力し、オムツの種類やタイプ等の連携を行う。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	30年5月29日に「身体拘束委員会」を立ち上げ、1名の利用者に必要時に応じた拘束を行っている。それは、他の利用者様に危害を加える可能性がある場合、一時的に居室で過していただくことにしている。最近は、暴力行為はなく、落ち着いている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加し、その内容を職員全員に周知するように機会を設け、日々のケアにも潜んでいる虐待につながる言動をスタッフ同士で互いに注意しあう関係を作っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間を通して、施設内で行う「内部研修」にて、スタッフが共に学びあえる機会を作り、共に研鑽している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に、今年度の制度説明を含め十分な説明を行い、同意を得る努力をしている。日常の介護の面でも入居の際に、個別のケアについてスタッフのケアとご家族の係わりについても協力を説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム理余上の苦情を受け付ける窓口を明確にして、苦情に対する早期の対応及び解決を心がけている。また、管理者より職員への指導も徹底して行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のリーダー会議にて、壱番館及び式番館のスタッフからの意見を代表者と管理者が話し合い、事業所の運営に活かしている。特に、地域との交流に関しては、近隣の住民の皆様達にご迷惑がかからぬよう、十分な配慮をしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、毎年職員の就業状況を判断して、給与の水準アップや公的な最低賃金等にも配慮して、適切な処遇を目指している。休憩場所の確保や環境にも配慮している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の教育は、個別の希望と事業所の要望を取り入れ、年間を通して計画し、資格の取得にも援助している。勉強会では、時期的に応じて企画を立てて、現在の業務に沿った勉強会としている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム協議会を活用し、他施設との交流介護体験に参加して、他施設の状況を実際の場面で確認することでスタッフの向上する機会ができる。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新たに入居される方々に対し、ホームを理解していただくような説明と理解を得る努力をします。始めて、ホームを利用される方に対し、受容を基本として、傾聴する姿勢で接します。安心が一番の接遇です。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	新たに入居された利用者のご家族には、生活日課や環境が不明なので積極的に状況をお知らせします。お手紙に写真を載せて、目で見えるようにし、行事には参加を促し、ご家族も楽しんでいただくようにする。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを開始する前に、事前に面背をさせていただき、利用者様とご家族様の両方にお話を聞きます。その上で、具体的なプランを作り、同意を得た後、入居いただき生活が始められるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護を受ける方の生活支援を介護する側の援助とはせず、利用者ファーストの意識で共に暮らす者として、関係を築きます。生活にはストレスもあり、ホームの中や外を活用して共に過ごす仲間のような関係作りをします。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との関係作りは、ご家族がホームの介護に口を出せない関係ではなく、自宅での介護状況や昔の出来事などを介護に活かしていけるように、ご本人の有意義な情報の提供と実践を行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様が入居前に大切にしていた家具や物、音楽、人等をご家族より聞いて、実生活に活かすように努力します。昔、ペットを飼っていた人は時々連れてきていただき、接する時間を作り、関係の維持に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の生活リズムの違いを把握し、一人になる時間やリズムを整える事で孤立を防ぐようにしている。昼間に居室で人になり過す時間を短くし、食事のテーブルでグループワーク等を行い、互いの協力を得るようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの終了後でも居宅介護支援事業所との引継ぎをしっかりと行くと共に、介護方法や必要な物品の調達等について助言できるようにしている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の言動や表情からご本人の意見を汲み取り、その人らしくホーム生活を送っていただけるよう心がける。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活や若い頃の様子等をご家族から聞き入れ、これまでの生活の様子を把握して、スタッフが共有できるよう努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全員が一人ひとりの全身状態を把握し、自力でできる事柄には積極的に参加していただけるよう努める。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居様が暮らす毎日を良きものとするために、あまり欲張らず現行の状態を出来るだけ維持していける工夫を考えていく。ご家族様には、単なる希望や要望ではなく、「今」を生きていく、援助を考えてもらう。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録を日々、時間の経過と共に記載し、職員の申し送りの際には一人の情報として伝達していく。また、全職員が情報の共有をするために、申し送りの活用をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別の対応として、その時のニーズに応ずる体制作りは、その都度その場で検討して対応していく。急な病院受診のニーズもあれば外出もある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域密着がテーマの施設であることを心がけ、町内会・民生委員を始め多くの地域の皆様にご協力をいただき、季節の行事等に取り組んでいる。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の診療については、個別の体調や慢性病等の療養管理をご家族の意見を聞き入れ、定期的な診療を提供していく。専門的な治療については、その都度専門医の指示を受けて、各科の医師と協力していく。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週3回看護師が出勤する時に、必要な処置や専門的な助言、健康指導を行っている。健康チェックについては、急な変化に十分配慮して、病気の可能性を予知して考える。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の状況については、医療機関のスタッフに十分状況を聞き入れ、状況を把握する。その際に、直接面接して打合せを行う必要もある。早期の回復や退院に向けた手段を共に共有できる連絡を続けていく。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化が予想される入居者様や終末期にある入居者様について、高齢者施設ができることを説明し、医療に係わる希望も理解する。ホームでは、介護を中心に意見を出し、適切な環境作りができるよう働きかける。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員が救急対応の講習に参加し、AEDも備え実際に使えるように講習も参加しています。入居者様の急変については、個々の変化の可能性を理解し、優先順位を確認しておく。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	各ユニット毎に災害時の対応を定めて、生命が一番優先することを考え、防災や避難に取り組んでいる。災害時は、地域全体が被害を受けパニック化しているために、ホーム内で安全な場所の確保を目指す。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人権を尊重した言葉かけを重視している。ホームでは、毎日の生活を気持ちよく快適な暮らしをしていただくことを目標としています。個人情報の管理はもちろん、プライバシーの保護も怠らないようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活を自己で判断できるような援助と、自己決定を重視する環境を作っている。ご本人様の意見を傾聴し、希望や要望を活かしていただけるような援助をしていく。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の目標はもちろんありますが、個々の要望によって過すことも大切なことなので、個々の生活スタイルに沿った暮らしぶりをしている。また、コンビニ等に買い物に行くこともある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ホーム内では、個室以外はパブリックスペースと考え、身だしなみには十分整えて生活していただくことにより、終日パジャマや寝巻きで過すことはせず、昼と夜の違いや1日の時間配分も理解していただくよう援助する。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	居室の掃除やモップがけ、その人ができる範囲で間接的に係わったいただき、食事を食べる時は必ずスタッフも一緒に食べることを習慣化している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量のチェックを行い、個別にまとめ1日の摂取量として一目でわかるようにしている。同時に排尿量の観察も行い、脱水予防に役立てている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず口腔ケアを行っている。自力で出来ない方は、一人ひとり洗面にて、入れ歯洗浄を同時に行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを確認しやすい表にして、形態別の表を作っている。これを個別のページとして、個別の援助に心がけている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個別の排泄パターンを把握し、排泄量と時間を確認する。生活サイクルの中で、水分摂取と適度な運動を心がけると共に看護師と共に相談しながら、内服薬の調整も行い、適切な排泄援助を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は、安全への配慮と衛生の保持を目的にゆったりと行っている。入浴日程の変更や調整は、職員の都合ではなく、個別の都合によって決めているので、生活目標に沿って援助できている。また、入浴は衛生面を考慮して一人ひとり新しい湯に入れ替えて入浴していただく。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個別の睡眠パターンを把握して、安心して眠っていたdふあくよう環境を整えている。夜間の排泄援助も汚れる時間を短くして衛生を保つ。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	最新の処方薬の種類や用法、副作用が記されているものを個別ファイルし、全職員が目を通すことができるようにしている。また、申し送りノートを活用し、職員に周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の得意、不得意を把握し、出来る限り得意なことを活かし他ホームの生活を送っていただくよう援助していく。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	全職員がお散歩や買い物に対応できるように努めている。ホームの近くのコンビニに買い物に行くことで馴染みの関係が築けるよう心がける。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームにて、ご家族より小遣い程度の現金をお預かりして、ご利用者様の要望によりコンビニ等に出掛けるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族と相談し、携帯電話を持っていたいただき、定期的にご家族向けに連絡を取れるような関係作りを構築できればよいと思っており、ご家族と話が出来る時間はとても良いと感じている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部のスペースは、全員の共用スペースとして季節を感じて頂くような演出をフロアの壁の部分に行っている。特に行事の際は、飾り物を共に作り、飾るようにして、楽しめるよう努力している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングスペースには、ソファが備えてあり、個別の居場所となっている。そこで、テレビを見たり、新聞を読んだりして自由に過している。また、ベランダに出て外気浴をしたり、季節を感じていただくようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、個別のプライバシーが保てる場所として確保している。ご入居者様が入居前にご使用の家具も持参していただき、生活の自由と安心を考えている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご入居者一人ひとりの認知度に合わせて生活状況を判断した上で、混乱を防ぎ安心を感じていただくよう努力する。その人らしい生活の実現に向けて支援していく。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム来夢の家

作成日 令和1年12月11日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	備蓄品専用の管理台帳を常備して、備蓄品の入れ替えを適切に行うことが期待されます。	備蓄品は品目・量・賞味期限・保管場所等に違いがあり、管理台帳の重要性を理解しているため、入れ替え時期やほかんばしよの適性を含め、管理を徹底する。	災害備蓄品一覧を作り直し、管理が複数人でチェックが可能なように改良する。	令和1年12月～令和2年1月
2	35	今後も避難訓練への協力を地域に働きかけていくことが期待されます。	災害や自家出火の時に、避難の協力を地域の皆様や近隣の皆様に引き続きお願いし、特に夜間の避難は人手が必要なことも含めて、地域防災の一つに加えて頂くよう働きかける。	運営推進会議や地域の防災の取り組みに参加し、地域の中の企業としての協力を訴え続けていく。助け合いはお互いの事なので、我々も地域への協力を惜しまないようにする。	令和1年12月～令和2年11月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。